

2006年
(平成18年) 4月5日 水曜日
第1274号
(月4回) 第1・第2・第3・第4
水曜日 発行

商経

管村新聞

THE KANZAI SHIMBUN

昭和51年8月20日第三種郵便物認可

東京本社 〒104-0032
東京都中央区八丁堀3-28-15
電話(03)3553-9161
FAX(03)3552-8549
中部支局 〒450-0002
名古屋市中村区名駅2丁目40-14
(大ービル)
電話(052)562-0477
FAX(052)586-4538
..... INTERNET/URL.....
http://www.shoukei.co.jp/

発行所 株式会社 商工経済新聞社

大阪市西区西本町1-10-7 電話(06)6531-6161
〒550-0005 FAX(06)6531-6090
振込口座 大蔵5-95400番

定価 1ヶ月 1,000円 1ヶ月 10,000円 前金

決定した協業化ロゴマーク



一新されたストレーナデザイン

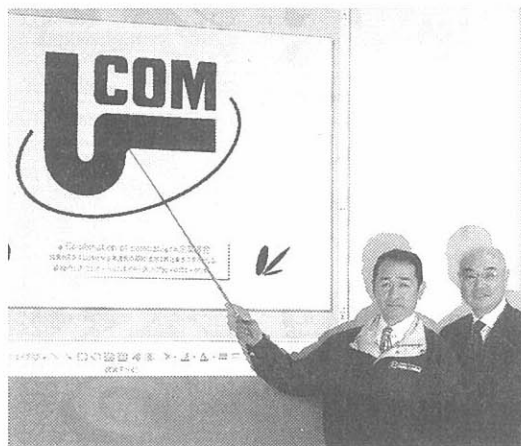


排水金具や鋳鉄製マンホールふたなどを製造・販売する長谷川鋳工所(埼玉県川口市川口一の五の一四、社長長谷川善一氏、☎048・2266・3333)と小島製作所(名古屋市中川区広川町五の一、社長小島徳厚氏、☎052・361・6551)は、排水金具や鋳鉄製マンホールふたなどの鋳造製品における相互協力について、製造分担方針を決定し生産に着手、五月二十一日から出荷を開始する。協業化によって生産の合理化と安定した供給体制を確保する。

対象製品には新たに作成した協業化ロゴマークを表示するほか、各社独自のストレーナ意匠についてもデザインを刷新。メーカー色にも広く門戸を開き、需要低迷が続く業界全体を底支えしていく方針だ。

協業化対象製品は、日本鋳鉄ふた・排水器具工業会規格の床排水トラップ、流

しトラップ、床上げ掃除口、排水金物、通気金具(JCW201・205)の五品目。製造分担を決定しすでに生産にも着手した。生産効率の悪い品種だけでなくロット集約可能な製品も共同生産することで、高騰する原材料価格を転嫁しても一〇〇前後のコストダウンが可能と見込んでいる。協業による両社合計シェアは



協業化ロゴマークを説明する長谷川善一社長⑤と小島誠造専務

推定約三八%、三年後五〇%獲得を目指す。

販売については、当初、各社ブランドで行う予定だったが、協業化PRの重要性で意見が一致したため統一ロゴマークを作成。両社事業の象徴となる排水トラップとマンホールふたをイメージし企業連合(association of Companies)の頭文字を配置したデザインに、「Pit trap COM(ピートラップコム)」の名称に決定した。対象製品には社名マークに代わり新マークが表示される。

また、各社独自の模様で製造されてきたストレーナ(目皿)についても両社製品デザインを統一。ストレーナの模様はメーカー識別ができるほど業界に浸透し

ており、生産統合・OEM化が難しい部分とされてきたが、新デザインの金型投資を行うことで解決した。今後はマンホールふたについても協業化の方向で検討を重ねるほか、新規需要獲得に向けた開発業務などでの協業化にも意欲を示している。

長谷川鋳工所
小島製作所

3年後シェア50%めざす
排水金具など協業化
生産の合理化、安定供給へ